

製品名: BMP-15 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07589**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

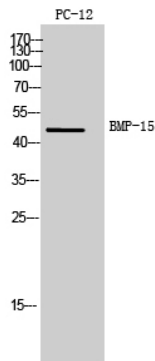
遺伝子名	BMP15
別名	BMP15; GDF9B; Bone morphogenetic protein 15; BMP-15; Growth/differentiation factor 9B; GDF-9B
遺伝子 ID	9210.0
SwissProt ID	O95972
免疫原	抗血清はヒト BMP15 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 291-340

背景

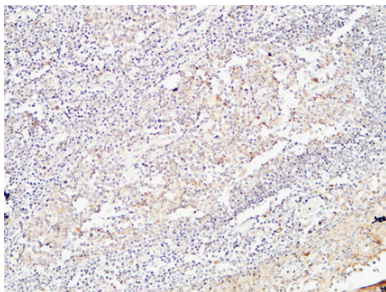
この遺伝子は、TGF- β (形質転換成長因子 β) タンパク質スーパーファミリーの分泌リガンドをコードしています。このファミリーのリガンドはさまざまな TGF- β 受容体に結合し、遺伝子発現を制御する SMAD ファミリー転写因子のリクルートメントと活性化につながります。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解処理され、関連タンパク質である成長分化因子 9 (GDF9) とジスルフィド結合したホモ二量体、またはヘテロ二量体のサブユニットを生成します。このタンパク質は、顆粒膜細胞の活性化を介して卵母細胞成熟と卵胞発育に役割を果たしています。この遺伝子の欠陥は卵巣形成不全の原因であり、早発卵巣不全と関連しています。[RefSeq 提供、2016年8月]、疾患: BMP15 の欠陥は卵巣形成不全 2 (ODG2) の原因です[MIM: 300510]。X連鎖性高ゴナドトロピン性卵巣形成不全症、または卵巣形成不全に起因する高ゴナドトロピン性卵巣不全症とも呼ばれる。高ゴナドトロピン性卵巣不全症は、最も重篤な症例では卵巣形成不全 (OD) または卵巣の発育不全に起因する不均一な疾患である。OD は原発性無月経の約半数を占める。機能: 卵胞の発育に関与している可能性がある。卵胞形成と顆粒膜細胞 (GC) の増殖を刺激する卵母細胞特異的成長 / 分化因子。、その他: 成熟タンパク質は、P16 (16KDa) と P17 (17KDa) という2つの異なる成熟タンパク質に遊走する。、類似性: TGF- β ファミリーに属する。、サブユニット: ホモ二量体。しかし、このファミリーの他のメンバーとは異なり、ジスルフィド結合できない。、

研究分野

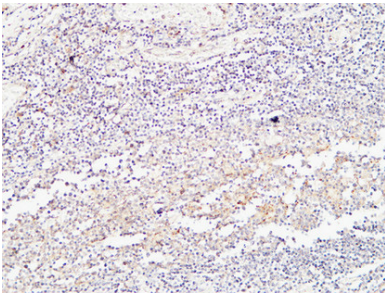
画像データ



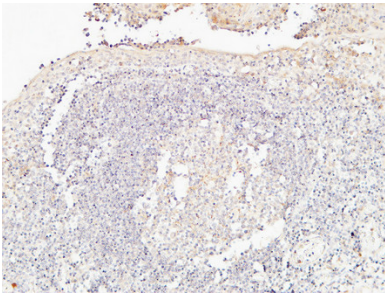
BMP-15 ポリクローナル抗体を用いた PC12 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



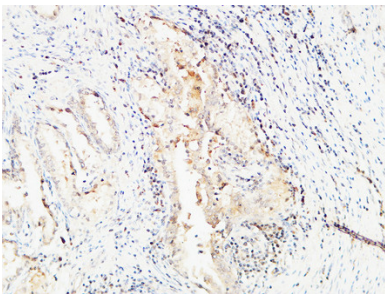
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



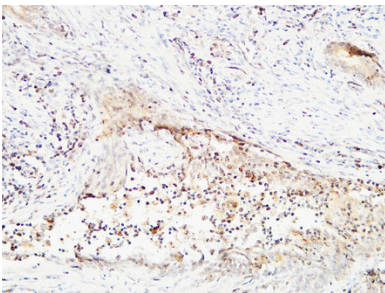
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



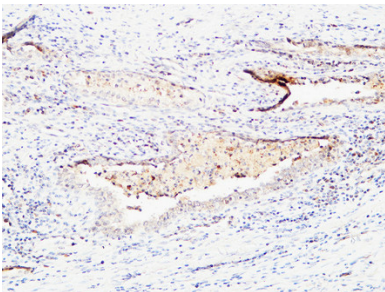
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。